

令和4年度活動報告書

1. 環境構成

不定期で在園児・卒園児のお父さんの中で有志の方が集まって、活動で使うフィールドの朽木の伐採・片付けやケガにつながるような場所にある大きな石の移動など環境整備をしてもらっています。お父さんの中でもこういう作業に慣れていない方もおられますが、長けている方から教えてもらいながらスキル向上しています。お父さん方ならではの力仕事をする姿を見て同行する子どもたちも良い刺激をもらっています。様々な職業の方がおられるのでお父さん同士も刺激し合い、良い交流の場になっています。



2. 子どもの育ち、3. 保護者理解

「卒園登山～今できなくても良い！ありのままの姿で！～」

おてんとさんは日常的に森の中で過ごします。森の中には大人が用意した遊びはありません。子どもたちが主体となって面白いこと楽しいことを見つけ出し、したい時にしたいことをします。「●歳だから～できるように」の線引きはなく、子どもたちそれぞれの育ちや思い、考え、タイミングを尊重しています。大人はそこに寄り添い、見守るという活動をしています。大人が介入しないことで、子どもたちは子どもたち同士で考え、話し合い、育ち合い高め合っています。



このように大人が子どもの遊びを用意する機会の少ないおてんとさんですが、小学生になる前の年長さんには広島市安佐南区で一番高く険しい山の頂上を目指してもらおうという『卒園登山』を用意しています。それは、戸山地区の大自然の中で仲間と一緒に、心と身体を育ててきて、新しい社会へ踏み出す前に、仲間と自分と深く向き合う機会を作りたい、との思いから設定しています。

例年の年長さんは、長い道のりと険しさに苦しみながらも頂上に辿り着き、自信と充実感に満ち溢れた顔で下山してきていました。

しかし、令和4年度の年長さんは少し違いました。

令和4年度の卒園登山の日は、みぞれも時折降るようなとても寒い日でした。それまでに続く低温で周りには雪が残っている所もありました。お母さん方や仲間に見送られ元気に出発した年長さんでしたが、次第にかじかんで痛くなってきた手足と疲労と辛さで、お母さんが恋しくなり涙が溢れ出しなかなか足が進まなくなりました。その日は、時間が迫ってきており途中で下山となりました。



その日のふり返りでは、

「もう疲れるから一生登らん」

「違う山（今まで登ったことのある山）なら登りたい」

「また暖かくなって天気の良い日に登りたい」

「また登って頂上からの景色を見たい」

とそれぞれの想いを聞くことが出来ました。

そのふり返りでも誰かの意見を否定するような発言はなくそれぞれを認め合っている雰囲気、これまでにミーティングの経験を重ねてきていた成果が見られました。

一方、見送る側となったお母さん方にも頂上まで行くものだと思っていたのに行けなかったことに対して戸惑いやモヤモヤを感じる方や学びを見出す方もいて、スタッフとお母さん方と想いを共有するためにミーティングをしました。

その場では、

「頂上に行けない場合もあることを想定をしておいたら良かった」

「寒さや濡れることに対する準備が足りなかったかも」

「行けたところまでを認めて暖かく迎えてあげたかった」

との子ども想いで温かい意見がありました。

その後、月日が経ち暖かくなってきて卒園が迫ってきた頃に卒園登山を提案してみました。

絶対行かないという子と天気の良い日が続いたら行くという子がいました。年長さんだけの登山をして改めて心の準備もして、行ける子だけで天気予報を見ながら卒園式前日に行くことに決めました。

卒園登山当日、「絶対に行かない」と言っていた子も自分で登る！と決意して登山の準備をしてきて、卒園児さん全員揃って順調に登山を成功させました。



この子たちは「今できなくても良い」「ありのままで良い」ということを体現してくれました。